

きょうの米原高校(6月23日)

先日、みなさんのマスクの布を送ってくださった高島晒協業組合様から、綿の布をたくさんいただきました。



滋賀県の湖西地区にある高島市新旭町。江戸時代末期から、農民の冬の副業として縮織生地が織られている。シボと呼ばれる凹凸を作った独特の織物で、吸湿性に優れ、爽やかな着心地であることから高温多湿な日本の風土に適した布として知られている。
(高島晒協業組合パンフレットより)

水と自然が豊かな滋賀県だからこそ生み出された布です。



高島晒協業組合を訪問してきました。



倉庫の中には、たくさんの綿の布が積まれていました。この布たちは、高島から出荷され、さまざまな場所で活躍するのでしょうか。

米原高校にいただいた布も、みなさんの環境整備に役立てたいと思います。みなさんが利用するときには滋賀県の地場産業である高島綿織物のことを知っておいてほしいと思います。

たくさんの布をありがとうございました。